

## 待降節第四主日

2015.12.20

ルカ 1・39-45

祭壇の脇に飾られた待降節の四本のローソクの全部に灯が点されて、教会は降誕祭を迎える静かな喜びの中にあります。教会のクリスマスの祝いがわたしたちに求めていることは、待降節の主日ごとに一本また一本と数を増してきたローソクの灯が降誕祭を前についにその全部に灯が点される、そんなローソクの灯が象徴している静かな喜びを味わうことの出来る心です。教会のクリスマスの祝いを彩る喜びの特徴は、クリスマスの祝いがもたらす、わたしたちのうちに広がって行くこの静かな喜びの実感です。今日の福音が語る聖母とエリザベトの心を満たしていた喜びはそのような喜びです。

今の時代に生きるわたしたちの心は、このような満ち満ちて広がっていく静かな喜びを感じにくくなってしまっているかもしれません。テレビの映像などを通してわたしたちが接する今の時代の人々の心の喜怒哀楽は、どこか人為的に増幅され過ぎていて、かえってわたしたちの心に届き難くなってしまっているように思えます。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、何と幸いでしょう」。聖母の御訪問を受けた時、エリザベトは聖霊に満たされてこのように叫んだのでした。クリスマスの喜びは、このようにしてもたらされる喜びです。エリザベトは天使のお告げによって自分の中に宿った子が、聖母のお声を聴いて胎内で喜び踊る、子を宿した母親だけが気付くことの出来る満ちあふれる喜びのうちに、最初の「アベマリア」の祈りを口にしたのです。そのようにして、今日の福音の中に響いているエリザベトの「アベマリア」の祈りは、いつかその「アベマリア」の祈りを唱えることを覚えたわたしたちをも、神の母となられた聖母のもとに招いています。カトリック信者であるわたしたちにとって最も馴染み深い、教会に伝えられてきた「アベマリア」の祈りは、それを唱えるわたしたちを聖母がお迎えになった喜びに満ちたクリスマスの神秘へとわたしたちを招き続ける祈りです。この「アベマリア」の祈りを心静かに唱える時、あるいは、この「アベマリア」の祈りをもとにした数々の名曲に聴き入る時、わたしたちは今日の福音の聖母とエリザベトを満たしている喜びを味わうことが出来るのです。

それにしても、エリザベトはどのようにして、エルサレムの神殿の聖所で夫

のザカリアが受けた天使のお告げを知ることが出来たのでしょうか。聖書は、ザカリアに現れた天使がエリザベトにも直接語りかけたとは語っていません。ザカリアは自分が神殿の聖所で経験したことを妻のエリザベトに語って聴かせたくても、口が利けなくなっていたのです。そんなザカリアを家にまで送り届けてきた人々の口を通して、エリザベトは夫のザカリアが神殿の聖所で経験した神秘のベールに包まれた体験の一端を知ることが出来たのかもしれない。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、何と幸いでしょう」。聖母マリアとその御子イエスに向けられた、祝福のいわば頂点をなすこのことばは、エリザベトが自らの体験を通して味わっている喜びの中から湧き起こってくる喜びに満ちた祝福のことばです。神の約束は必ず実現すると信じ、そのことが今自分たちの中に実現しつつあることを身をもって感じ取っている聖母とエリザベトに共有されているこの喜びが、今日の福音を通して、わたしたちの心にも伝わってくることを祈りたいと思います。洗礼者ヨハネの母となるエリザベトと、その洗礼者ヨハネが指し示す神の子イエス・キリストの母となる聖母の心を一つに結び合わせている、ひたすらなる神の約束の実現を信じる者たちの心からの喜びが、わたしたちをもその喜びの中に静かに包み込むことを祈り求めたいと思います。エリザベトの胎内で鼓動を打ち始めた洗礼者ヨハネが聖母のお声を聴いて喜び踊ったように、わたしたちのうちに宿った信仰のいのちが、クリスマスを祝うこの時、新たな喜びのうちに目覚めることを祈り求めたいと思います。

クリスマスの夜、天使のお告げを受けた羊飼いたちがベツレヘムの馬屋に駆けつけ、そこに聖母に見守られた乳飲み子イエスを見出すことによって知ることのできた、今まで経験したことのない、静かな、しかし、限りなく広がって行く大いなる喜びを、わたしたちも間もなく迎えようとしている教会のクリスマスの祝いの中で味わうことが出来たらと思います。人為的に増幅されたのではない、神の約束の実現を信じた者たちが味わうことの出来る喜びを、このクリスマスにわたしたちも味わうことが出来たらと思います。そのためにも、わたしたちの心の宝である「アベマリア」の祈りにあらためて心向けたいと思います。

聖母のお姿が見当たらないクリスマスはありません。お生まれになった神の子イエスを見守る、神の約束されたことの実現してゆく有様を一つ一つそのお心の中に納め、思い巡らされる聖母の、如何なることにも揺らぐことのない満ち満ちた喜びが、迎えるわたしたちのクリスマスを含みこむことを祈りましょう。

神の子の受肉の神秘の中で、神の母となられた聖マリア、わたしたち罪人のために、今もいつも、死を迎えるときもお祈りください。アーメン。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高